

令和6年7月 編集・発行
岡谷市教育委員会
川岸学園整備室

川岸学園NEWS

～異年齢の子ども達がつながる新たな環境づくりをめざして～ 第3号

川岸小・西部中合同の「川岸地区健全育成の会」に参加させていただきました

6月26日(水)に川岸小学校で行われた小中学校合同の「川岸地区健全育成の会」に参加させていただきました。

はじめに、全体会では、出席された保護者やPTA関係者、小中学校の先生や地域の方を対象に川岸学園の施設整備やスケジュール、今後の検討事項について、説明をさせていただきました。

その後、分散会形式で各地区にまとまって、意見交換会を実施しました。

これから新しい教育環境を整えていくために考えなければいけないことがいろいろ出てきますが、今回は、その中から、次の3つのテーマについて、意見交換をしていただきました。



- ①川岸学園に向けたPTA活動のあり方(PTA組織のよりよいあり方)
- ②地域とのかかわり(地区行事、登下校)
- ③学校行事

分散会では、それぞれの立場で、ざっくばらんに今感じていることや想い、今後検討を進めていく上で大切にしたい考え方など、皆様からたくさんのご意見をいただき、本当にありがとうございました。

～当日、分散会で出た意見について、一部を紹介させていただきます～

①川岸学園に向けたPTA活動のあり方

- ▶PTA会長にとって、9学年をまとめていくのは不安や負担が大きい。PTA活動の見直しと負担軽減も一緒に考えていくべき。PTAがそもそも何のためにあるのかをよく考え、保護者も納得できるPTAにしていくべき。
- ▶地区の区切りや登校班の見直し、PTAの会費のあり方についても考えた方がよい。
- ▶PTAの役員を決めるルールの見直しについて、話が出た。役員を決める上で、小学校は保護者の協力が必要だが、中学校は子どもたちの活躍の場として役員を必要以上に増やさない方がいいのでは。
- ▶こういう節目だからこそ、例えば、PTA組織を無くすなどの突拍子もないことも含めていろんな方面から考えていく必要がある。「そんなことできるの?」ということもこのタイミングだから検討してほしい。

②地域とのかかわり

- ▶PTAや保護者だけにとらわれず、地域の方々もいろんな活動に参加していただくことで、地域の高齢者の方々の生きがいにもつながるのではないかな。この地域の歴史など、学校の先生ではなかなか教えることが難しいことも地域の方々なら教えてもらうことが出来るのではないかな。
- ▶地区の区切りの見直しも絡めて、小中が合わさった地区の活動に改善していくべきではないかな。

③学校行事

- ▶中学生と一緒に登下校してくれると小学生が安心できる。中学生が中心となるのではなく、6年生がリーダーとなり、中学生がそれを見守るという形であれば、6年生もリーダーシップを発揮できる。
- ▶部活動も小学校から参加できるようになると人数が増えてよい。今後は地域移行ということもあるが、人数が増えて、新たな部活動ができるとよい。
- ▶地域の皆さんが集まる運動会などの行事が少しずつできたらよい。来年から少しずつでも小中一緒にやる行事を増やしてほしい。
- ▶小中全体の音楽会として、小学校で音楽会、中学校で全員で合唱ができればよい。運動会は、年齢差があるので、全体で実施ができるかという疑問が出た。
- ▶6年生が卒業するというのは子どもたちの節目であると同時に、保護者にとっても節目であるので親として涙を流したい気持ちがある。ぜひ6年生にも卒業式に代わる式典を考えてほしい。
- ▶まずは小中合同の音楽会を開催したらどうかという話が出た。小学1年生が中学3年生の演奏を聞いてどう感じるかが気になる。

その他の意見

- ▶少子高齢化の影響で岡谷市の子どもがどんどん少なくなっている。少子化は日本全体の大きな流れとなっているので、予算が厳しい状況は理解できるが、まずは教育に力を入れてほしい。
- ▶川岸学園も設立準備委員会等をこれから設置するということだが、どのような人が委員になるのか、しっかり周知してほしい。地域の声を聞かず、行政の意見で走っているように感じる。
- ▶川岸学園では、カリキュラムも非常に大切であり、より良い教育が提供されれば、評判となり、「川岸学園いいじゃないか」、「川岸に引っ越して子どもを通わせようか」と思う人が出てくれば、川岸の活性化につながる。川岸学園の成功を祈っている。
- ▶義務教育学校になったらこうしなければいけないと考える前に、まずは子どもたちにとって1番大事なものが何かをぜひ考えてほしい。
- ▶LD等通級指導教室やことばの教室、特別支援の環境などを率先して作ってほしい。いろんな学校にそういった学びの場がどんどん整っていくとよい。
- ▶小学校と中学校の体操着は統一していただくと保護者として助かる。他に通学カバンや小物の使い回しができるといい。

今回、3つのテーマ以外に、小学校からの部活動の体験活動や中学生との登下校の取組など、義務教育学校ならではのアイデアの提案もたくさんいただきました。

また、「現時点では施設整備が先行している」というご指摘もいただき、皆様への説明が足りなかったことについて、申し訳ありませんでした。教育方針や授業内容など、新しい学校の中身（ソフト面）を充実させていくことが最も重要な取り組みだと考えており、これについては、子どもたちや現場の先生方、保護者、地域の皆さんと一緒に今年度から時間をかけてじっくり考えていきたいと思えます。

紙面の都合で掲載できなかったご意見も含め、今後設置する各部会での議論の重要な検討材料として活用させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。

今月の広報おかや(7月号)になぜ、「小中一貫教育」が今注目されているのか、「義務教育学校」はどんな学校？という内容の特集記事を掲載しています。
ぜひあわせてご覧ください。

記事はコチラ ▼

